

陣中日誌ノ格式

第一 陣中日誌ハ左ノ諸部團隊ニ於テ作ルヘキモノトス

大本營ノ各部(郵便部ヲ除ク)高等司令部(獨樹ノ各部)區分ス
ルモノハ其各部毎ニ担郵便部ヲ除ク)兵站監部ノ各部兵站司

司令部聯隊大隊獨立中隊砲兵聯隊設列堡壘圍獨立堡壘獨
立砲臺電信隊衛生隊病院縱列監視隊兵器廠豫備員隊備廠

患者輸送部馬廠

留守司令部及補充諸部隊ニ在テハ右ノ區分ニ應シ留守日誌ヲ
作り首トシテ第三項乙ニ掲クル項目ニ準シ記載スヘシ

第二 陣中日誌及留守日誌ハ諸隊團隊動員令受領ノ日ヨリ記載
スヘキモノトス

特別部隊等ニ在テハ先ツ到着セシ將校又ハ同相當官之カ記載ヲ始
メ後ニ之ヲ主任者ニ移スモノトス

第三 文ヲ作ルノ目的ハ左ノ二項ニ在リ

甲、各人若ハ諸部團隊ノ經歷若クハ遭遇シタル實況ヲ記載シ
一ニハ戰史ノ用ニ資シ一ニハ各人ノ勤勞ヲ他日銓衡スルノ參

考ニ供ス

乙、編制教育補充給養衛生武器彈藥器具材料被服裝具
等凡テ軍事ニ關スル事物ノ經驗ヲ錄シ將來改良ノ材料ト爲ス

第四

甲ノ目的ヲ達センニ左ノ諸件ニ注意シテ記載スヘシ
一、命令、訓令、通報(機密作戦日記ニ記載セルモハ軍部ニ報告スルニ付記スヘシ)
二、毎日ノ位置(某地ヲ去テ某地ニ留ル等)

三、行軍、宿營ニ關スル事項

四、戰鬪ノ景況(戰鬪ノ頭末ヲ記載スヘキモノニシテ隣接部隊ト關係及緊要ナル時機ニ於ケル部隊位置、略圖ハ殊ニ明確ニシムルヲ要ス)
五、戰鬪間ニ生シタル事件

以上ノ事ヲ記スルニカキテ時刻ヲ詳記スルコトヲ忘ル可ラス又以上ノ事ニ
關シ自己ノ部隊ニ影響有セシ事項(天候、地形、險易、道路、良ノ口人
家ノ多少、守、獲)ハ詳細ニ記述セサル可ラス

六、所屬セシ軍隊ノ區分(精銳、先鋒、後衛等)
七、人員ノ異動

轉任、死傷等將校ハ官氏名ヲ錄シ下士兵卒及馬匹ハ其數ヲ錄ス
八、休戰中ノ宿營

九、野戰作業等ノ施設

十、其他凡ソ其一日間ニ生セシ緊要ノ事項

第五

乙ノ目的ヲ達センニハ左ノ諸件ニ注意シテ記載スヘシ

一、武器、彈藥、器具、材料、被服、裝具等ニ關スルコト

二、編制及諸規令ノ作戰上ニ及ボシタル影響等

三、補充給養衛生上ニ關スルコト

四、教育及軍紀ニ關スルコト

五、非常ノ時機ニ際シテ爲シタル非常ノ處置例ハ敵地ニ在テ

住民ニ多額ノ罰金ヲ課シタル等

第六

高等司令部、諸部隊諸官解任、到達先令、訓令、通報及之

ニ送呈セル報告、詳報其他死傷表、武器彈藥類表、六前哨等、至レル報告等ハ凡テ其要領ヲ摘ミ、記事ノ後ニ低書シテ参照ニ備フヘシ、但各原本ハ種類毎ニ一括シテ保存スヘシ

秘密ニ屬スル特別任務等ニシテ當時之ヲ日誌ニ掲載スル能ハサルモノト雖モ其妨ナキニ至テハ成ルヘク詳細ニ其顛末ヲ記載スルモノトス

第七 凡ソ此ノ日誌ハ日時(順序、遂ニ)ト地名トヲ明記セザル可ラス而シテ諸部團隊ノ長(或ハ參謀長)之ヲ點檢シ毎日記載ノ結尾ニ捺印或ハ華押スヘシ

第八 此日誌ハ諸部團隊復員完結ノ日ヲ以テ終局ト爲シ直ニ本ヲ騰寫シ順序ヲ經テ陸軍省ニ原本ハ其部隊ニ格納スヘシ
陸軍省ハ此日誌中ヨリ所要ノ事項ヲ抄録シテ之ヲ保存シ他ハ皆參謀本部ニ送り之ヲ陸軍文庫ニ格納スヘシ
第九 此列式ハ此ノ陸軍中日誌ノ巻首ニ貼付スヘシ

命 令 二 井 井 命 第 三 號 左 ノ 如 シ
一、大隊ハ一日現在地ニ於ケル露營ヲ撤收シ船舶
輸送行軍ニ依リテ歸仁ニ向ヒ前進セントス
二、各隊ハ一日ニ。現露營地附近ニ集結スヘシ
隊形ハ現地ニ於テ指示ス

三、本輸送間左記ノ者搭載係ヲ命ス
人員搭載係 義井少尉
第五中隊 下士官一

二、荷物搭載係 河合少尉
本部、第四、六中隊 下士官一

各中隊 兵 五

大隊ハ十二日間ニ亘ル伊江島船行場ノ作業ヲ終リ歸營準備ヲナス

第三機関銃中隊兵三

3. 馬匹搭載係

長越少尉

本部

兵一

四、富田主計中尉ハ渡久地へ歸仁間ノ貨物輸

送ニ関シ處置スヘシ

五、露管徹收後ノ復舊作業ヲ完全ニ之ヲ實

施シ防塵ニ関シテ確實ニ其處置ヲ妥實施スヘシ

六、出發ハ一日二〇〇ト豫定スルモ別命ス

行軍序列

本部 4、5、6

七、予ハ二三〇大隊本部ニ在リ爾后先頭ニ在リ

テ前進ス

大隊長

井上大尉

三、一〇〇〇ヲ將校全員旅團長ノ訓示ニ出席シ引續キ

工事完成ノ祝杯ヲ賜フ

旅團長ノ伊江島飛行場設定完了ニ方リ與テ

訓示別紙ノ如シ

行 動

四、大隊ハ二五〇伊江島出發一六〇渡久地着爾后

行軍ヲ以テ全員無事ニ二三〇駐屯地ニ歸隊ス

各ノ勤務員共完全ニ任務ヲ遂行シ何等ノ事故

ヲ認メス

今歸仁

宿營地

日直下士官

陸軍軍曹

岩淵亮一

勤 務

將校以下 二八名

人 員

井上

伊江島飛行場建設完了ニカキ英ナル前示
軍ノ重大決心ニ基テ伊江島飛行場急建設作業ハ
各部隊長以下ノ眞ニ疾クマシキ奮闘努力カニヨリ所命ノ
期日迄ニ概ネ之カ完成ヲ見ルハ國軍ノ爲メ一大戦力ノ増
強ニシテ諸子ノ勞ヲ多トシ且本職ト諸子ト共ニ國軍ノ爲
同慶禁シ得ル處ナリ此間各部隊長以下旬日有餘
ニ亘リ資材及器材ノ不足ヲ克服シ天下克ク刻苦鉄
ニ耐ニ眞ニ晝夜兼行黙々トシテ任務必成ニ爲ル其精魂ヲ
傾倒シ其目的ヲ達成シタル旅團ノ面目躍如タルニアリ
就中本作業實施ニカキ第九師團ヨリ臨時ニ本職ヲ指
揮ニ入ラシメラレタル宮内支隊長以下將兵ハ膨大ナル作業量
ヲ擔當セシメタルニモ不抱支隊長ハ精熟ナル作業指揮ヲ計
畫的作業部署ト據リ一木一草一石徹ニ至ルマテ之ヲ活用シ
以テ之ヲ戦力化ニ努メ南西諸島方面ノ基地建設ニ關シ新

機軸を開キル創意ニ夫ト努力ニ對シ深甚謝意ヲ表スル

トニコナリ

惟之ニ離島ニ於テ航空基地ノ設定ハ不沈航空母艦ノ建設比適シ其成否ノ遲速ハ國運ノ隆替ニ關スル重大ナル戰略的價値ヲ有シ之カ建設ハ大ナル資材ヲ要スルコトナク單ニ汗ト努力トノ總和ニ歸ス。而シテ今次設定作業ハ國軍ニ於ケル臂力ヲ派テスル飛行場急速設定ノ新記録ヲ樹立セルモノニシテ實ニ偉ナルモノト言フハシ

之ヲ要スルニ諸子ノ旬日ニ亙ル努力ノ結果ハ實ニ南西諸島ノ複廓タル沖繩本島方面ニ於ケル航空戦力ノ一大増強ニシテ國軍航空作戦ノ進攻邀撃機動ノ爲放膽ナル作戦遂行ニ支障ナカラシメタルモノナリ。重ネテ諸子ノ努力ヲ多トス

昭和十九年十月一日

旅團長

鈴木少將

十月一日	無事終了歸隊兵器被服ノ手入ヲ完了セシム
十一月	營内ニ入浴場ヲ設置シ入員入浴セシム
命	二、予右各中銃隊毎ニ體操競技ヲ實施ス
命	三、井日命第五三號
	一、陸軍中尉 山下寛治
	右者事務連絡ヲ爲本二ヨリ二泊三日ノ豫定ヲ以テ那覇市中ニ出張ヲ命ス
	二別紙ノ通リ日直將校ノ服務スヘシ
宿營地	今歸仁
勤務	日直下士官 陸軍軍曹 仲條嘉春
人員	將校以下二八名

(井)

日	一	二	三	四	五	六	日
木	木	木	木	木	木	木	木
本	本	本	本	本	本	本	本
林	林	林	林	林	林	林	林
書	書	書	書	書	書	書	書
員	員	員	員	員	員	員	員
出	出	出	出	出	出	出	出
席	席	席	席	席	席	席	席

全員休養セシム

二、関中尉一四〇〇ヨリ今歸仁村役場、村常會ニ出席ス

三、古賀軍醫少尉ハ本日ヨリ四日間、女子青年團婦人會ニ對シ衛生法、救急法、擔架兵ノ教育ヲ行フ

衛生法、救急法及擔架教育
 〇八〇〇—二〇〇
衛生部員、本分、人體、構造

一三〇〇—一六〇〇
衛生部員、本分、人體、構造
 場所、今歸仁國民學校々々

各被教育者ハ熱心ニ演練シ良好ノ成果ヲ得タリ
 今歸仁

宿营地 日直下士官 陸軍軍曹 仲條嘉春

勤務

（井七）

人員

將校以下 二八名

十月四日
雨、晴

教育

一〇九〇〇合前ニ於テ勅諭奉讀式ヲ實施ス

二〇九三〇ヨリ左記教練ヲ實施ス

軍紀教練 〇八〇〇〇一七〇〇〇

場所 校庭、廣場

指揮 仲森軍曹

三、間中尉〇九三〇ヨリ伊豆味ハ連絡ノ為赴キ三〇〇

歸隊ス

四、古賀軍醫少尉以下五名、女子青年團ニ對シ補助擔架ノ教育ヲナス

場所 役場附近、廣場

〇九三〇〇一七〇〇〇

五、四〇〇ヨリ一六〇〇迄、大隊長、將校、全員ニ左記教育ヲナス（場所、學校、將校室）

左記

密林内ニ於テテ防衛下ニツキ

六、副官、那霸市ニ出張中ノ處ニ二〇〇歸隊ス

今歸仁

日直下士官 陸軍軍曹 岩淵亮一

將校以下 二八名

（井上）

十月五日
曇

一、古賀軍醫少尉以下四名、女子青年團ニ對シ補助

擔架兵ノ教育ヲナス

〇八〇〇〇一七〇〇〇（衛生材料、綜合訓練）

十月六日

宿營地
勤務
人員

今歸仁
日直下士官 陸軍軍曹 岩淵亮一
將校以下 二八名

十月六日
行 動

一大隊長各中銃隊長八獨混二五夜命第四八號
二基ノ陣地ノ地形偵察ノ爲。八。〇。出發シ該
地ノ偵察ニ任シ一六。〇。歸隊ス
三古賀軍中醫少尉以下六名女子青年團三尉
補助警備隊兵ノ數有ラズ

一三。〇。一六。〇。
場所 今歸國民學校及庭

陣地構築
命令

三仲條軍曹以下五名陣地洞窟ヲ作業
四井日命第五六號
井上隊命令 十月六日

宿營地
勤務
人員

一、
右者駐屯地會報出席ノ爲明七日渡久地ニ
出張シ命ス
今歸仁
日直下士官 陸軍軍曹 岩淵亮一
將校以下 二八名

十月七日

十月七日
宿營地

十月七日
宿營地

陣地構築

一、仲條軍曹以下八名陣地構築亦業實施ス

二、古賀軍醫少尉以下六名女子連隊一対に衛生教育ヲナス

時間 前日三回シ

行動

三、副官駐屯地會報出席ヲ為シ、八〇〇出發渡之地

ニ到ル

四、大隊長〇八〇〇—二〇〇間各中銃隊陣地台領ヲ

指導ス

五、大隊長獨混五作命第四號ニ依リ新ニ構築スル

陣地ハ通スル道路構築ヲ指導ス(二二〇〇—

一八〇〇)

今歸仁

日直下士官

陸軍主計及長 中田芳雄

奉讀式

日精忠碑終了直後當書奉讀式並大隊長精神訓誡ヲナス

陣地構築

二、仲條軍曹以下八名陣地(洞窟)作業之實施ス

三、大隊長陣地構築視察並指導ヲナス

(〇八〇〇—二〇〇)

四、一三〇〇左記電文ヲ受領ス

要旨

一、マリヤナ方面敵機活動部隊空襲ニ公算アリ

二、十月八日一〇〇〇球一六六部隊長ハ南西諸島全

地域對シ丙隊戰備下令セシ

各地區隊並旅團直轄部隊ハ配備ノ狀況並

處置概要ヲ速力ニ報告スハシ

五、右翼シ大隊ハ内號配備ヲナスト共ニ聯隊本部
ハ左ノ如ク報告ス(暗號)

各中隊ノ主力陣地構築出動中ナリ依リ直ニ
傳令ヲ以テ情況ヲ示シ掩蔽下ニ待避シ得ル
如ク準備ス

發置者ヲ以テ對空射擊部隊ヲ編成シ戰鬪
準備ヲトス

渡歸仁ニ在リ監視哨ヲシテ警戒ヲ嚴ニセシム

命令六 井日命第五七號

井上隊長 十月八日

陸軍軍醫少尉 古賀 明

右者事務連絡ノ爲メ明九日即日歸隊ノ豫定ヲ
以テ渡久地ニ出張ス命ス

陸軍主計伍長 中田 芳雄

治者事務連絡ノ爲メ明九日即日歸隊ノ豫
定ヲ以テ渡久地ニ出張ス命ス

命令七 井作命第三三號

井上隊長 十月八日

一、敵情及友軍戰備ノ度ハ獨混一五作命第五一號
ノ如シ

二、守備隊ハ對空並海上警戒ヲ嚴ニシ對空戰備ヲ
強化セントス

三、第五中隊ヨリ左ノ如ク兵力ヲ差出シ對空監視ニ
任スヘシ

監視哨長 下士官一

歩哨 兵 六

哨所ハ今歸仁夜南西側附近トシ現地ニ於テ指
示ス

宿營地
勤務員

今日歸任
日直下士官
將校以下二八名

陸軍主計主任長 中田芳雄

四、機関銃中隊ノ下小隊ハ對空射撃部隊トナリ
 夜庭西側附近ニ位置シ對空射撃ニ任スルニ
 射撃開始ノ時機ハ大隊長之ヲ命ス
 五、兼次分屯各隊ハ機関銃一ノ小隊ヲ以テ對空射撃
 ニ任セシメ其ノ他ニ關シテハ橋本大尉區署ノスルニ
 六、爾今ノ各隊ハ空襲ニ際シ掩蔽トシ待避スル如ク
 準備ヲナスト共ニ各隊共燈火管制ニ遺憾ナカ
 ラシムヘシ

大隊長 井上大尉

下遺法命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

陣地構築

一、仲條軍曹以下五名陣地構築作業ヲナス
 二、大隊長〇八〇ヨリ一三〇〇迄陣地道路偵察並
 各中銃隊ノ陣地構築ノ指導ヲナス
 三、吉賀軍醫少尉中田主計主任長事務連絡ノ
 爲メ〇八〇聯隊本部ニ出張ニ〇〇歸隊ス
 四、井日命令第五八號別紙ノ如シ
 五、井日命令第三四號別紙ノ如シ
 六、獨混三五作命令第五二號要旨
 一、地區隊ハ部ノ幹部ヲ派團ヲ通シ武部隊ニ
 派遣シ其陣地構築狀況ヲ實地視セシメ
 我カ陣地構築ニ資セシム
 二、左記人員ハ第二次陣地構築視察員トス
 十月十日一二〇〇迄ニ地區隊本部ニ集合ス

命令

人員	勤務	宿營地	第二大隊	北地區隊長	陸軍主計佐長	日直下士官	將校以下	今歸仁	ハシ
二八名	中野中尉	美田大佐	長越少尉	中田芳雄	陸軍主計佐長	日直下士官	將校以下	今歸仁	ハシ
	義井靜夫								服裝ハ單獨ノ軍裝トシ眼鏡ヲ携行スヘシ

井日命第五八號

井上隊命令

十月九日

一〇〇地區

陸軍少尉

義井靜夫

右者明十日頭書ノ通り巡察ヲ命ス

二本目上番部隊衛兵ヲ彈藥庫歩哨ノニ變更ス
依テ各隊ハ別命ヲ送左記ノ員ヲ差出シ服務スヘシ

左記

第五中隊

司令

歩哨

本部

歩哨

第三機関銃中隊

歩哨

三別隊ノ通り部隊日直將校ニ服務スヘシ

十月十日	十月十日	十月十日	十月十日	十月十日	十月十日	十月十日	十月十日	十月十日	十月十日	十月十日	十月十日	十月十日	十月十日	十月十日	十月十日	十月十日	十月十日
...
...

第二大隊命令

一〇九九五〇〇
於今歸仁哉

一聯隊ノ企圖獨混一五作命第四八號ノ如シ
 第一大隊ハ左第一線トナリ第二大隊ニ連繫シ△2385高地
 附近ヨリ屋比久原附近ニ亘ル間ニ堅固ニ陣地ヲ占領ス
 聯隊砲ノ協カ要領獨混一五作命第四八號第八項ノ如シ
 大隊六聯隊ノ右第一線トナリ屋名座北東方高地ヨリ東上
 南東方高地ニ亘ル間ニ堅固ニ陣地ヲ占領シ一部ヲ
 △302高地ニ羽岳附近ニ前進陣地ヲ占領ス
 敵陣地ノ前進陣地トシテ敵戦力ノ漸耗ヲ圖リ以テ
 敵軍ヲ全滅セリ

公... 進陣地ニ占領スベシ
細部ハ現地ニ於テ指示ス

四 第四中隊 (MG一ヶ小隊 屈) ハ中第一線トナリ

△302 西側高地及同北方高地ニ據点式ニ堅固ニ陣地ヲ
占領スベシ

MGヲ以テ第六中隊ノ正面ニ各據点間ヲ側防スル如ク陣地ヲ
占領スベシ

細部ハ現地ニ於テ指示ス

五 神谷小隊ハ左第一線トナリ 東上原 東方高地ニ據点式ニ
陣地ヲ占領スベシ

六 第三隊 關銃中隊 (二ヶ小隊 欠) ハ各一分隊ヲ以テ第四中隊
左第一線小隊及神谷小隊ノ據点間ニ夫々陣地ヲ占領シ

第七中隊ノ主力正面ニ第一大隊正面並ニ據点間ノ間隙ヲ
側防スベシ

七 第一線中隊ノ戦闘地境左ノ如シ

右 中第一線中隊

△302 高地西方高地ノ南側凹地——乙利岳

中 左第一線中隊

團上内堂ノ内ノ字ト與那嶺西端ヲ結ブ線々上ハ六ニ
右ニ屬ス

八 第三隊 (二ヶ小隊 欠) ハ據備隊トナリ 橋地北方高地ニ堅固ニ
陣地ヲ占領スベシ

九 第四中隊 (MG一ヶ小隊 欠) ハ乙利岳及同東方高地ニ前進陣地ヲ占領スベシ

十 第五中隊 (MG一ヶ小隊 欠) ハ乙利岳及同東方高地ニ前進陣地ヲ占領スベシ

今歸仁枝大隊本部ニアリ
心取備上共ニ福地北方
大隊戰闘指揮所ニ到ル

第二大隊長 井上大尉

下達法

既布光

報告通報光

命令受領者ヲ集メ印付交付

治中ノ次

R本部工、IA、P、L中隊

一 起床點呼時西方ニ爆音爆裂音ヲ聴キ不審ニ思フ

二 〇七〇九空襲警報發令ナル(電話)

三 大隊ハ空襲警報發令ト同時ニ宿營地附近ニ待避セシメ極力損耗減少ニ努ム

四 〇七三〇P、L、I、四機飛來ス

崎山附近沿岸一船舶一炎上

連天港重爆撃

〇九〇七再來三〇機

〇九二七連天港之爆撃ス同時連天港附近火災ス

一〇四〇再來機去ル

一一四〇連天港仲宗根(對スル銃撃ヲナス(三〇機)

一三一〇大隊本部機銃掃射ヲ受ク人員被害ケシ

五、三〇。曉部隊ノ年屬矢野晴吉以下五名(七二〇共
 榮丸)敵機ノ機銃掃射ヲ受テ搭架ニテ大隊ニ收
 容ス
 輸送途中矢野晴吉死亡ス
 六、一三三〇。有線電話不通トナル
 七、一六〇〇。敵機去ル
 八、大隊ハ何等異状ナシ
 九、對空監視班對空射撃部隊ヲ殘シ一時兵舎ニ待
 機セシム

命令 井上隊命令第五九號

井上隊命令

十月十日

陸軍衛生兵長 有賀孝雄

上等兵 横山利治

同 中田甚作

海軍少尉 藤原謙三

ヨリ一泊二日豫定ヲ以テ名護ニ出張ノ命ス

二、有賀兵長以下三名曉部隊ノ戦傷死者ヲ護送
 一八〇名護ニ出發ス

三、本日ニ於テ戦闘状況別冊ヲ如シ

宿營地 今歸仁

勤務員 日直下士官

人員 陸軍主計任長 中田芳雄

將校以下 二八名

(井上)

十月十日
 命令

一〇四〇。左記要旨命令ヲ以テ情報ヲ受領ス

北地區隊命令

一、敵情ハ諸官ノ知ル如ク敵機空襲班一部上陸

ニ公算ナク

二、地區隊八直ヲ新配備ニ付キ狀況推移ニ即應
セントス

三、第一、第二大隊八大隊長ノ區署ヲ以テ直ヲニ
新配備ニ付キ戦闘ノ準備ヲケルト共ニ工事
ヲ促進スシ

(聯隊本部ノ右井少尉以下三名殘置シアリ)
第二大隊八直ヲニ常時命令ヲ受領者ヲ聯隊
本部ニ差出サレ度

命・今 二、第一大隊ヲ通シ旅團命令ヲ要旨左ノ如シ

一、旅團ハ以後ニ乙號戰備ヲ以テ防衛ニ任スルト共ニ陣地
構築ヲ促進セントス

二、各隊ハ益々對空海上ノ警戒ヲ嚴シ萬道港トキヲ
期スルト共ニ晝夜兼行ヲ以テ陣地ノ完成ニ努ムルニ
務メ

聯隊本部ハ二〇三〇ヨリ内當ニ移駐開始
貴隊聯隊本部トノ連絡不能ナル由ニテ當隊ヨリ
連絡ス

三、第一大隊ヨリノ情報左ノ如シ

道土名ニ被我不明ノ輸送船五西道中
與論島附近ニ戰艦(一)一四〇〇發見ス
伊江島本部附近ニ敵ノ陸公算大ナリ

(今五部隊ヨリ一九四五度)

海上對空監視ヲ嚴ニスルコト

四、大隊八直ヲ起床陣地ニシテ準備命令ヲ與ハ洋
備セシム

命令 五、井作命令第三五號

第三大隊命令

十月廿日 二五〇
井作

一、予土却隊通報ニ依リ邊上名ニ被我不明ニ被送
船五隻西進中、與高島附近ニ被檢(一)四〇〇發
見ス敵上陸ノ公算大ナリ

二、大隊ハ作命第三三號ニ依リ内富主陣地ニシカトス
三、各隊ハ發置ノ員ヲ一〇名残レタル後速ニ出發各隊
ニ毎三所是ノ陣地ニシラハシ

四、關中尉ハ發置ノ員ヲ區署ニ種林彈藥疎開
搬送ニ任スヘシ

五、予ハ四〇〇遠現在地爾後三〇ニ西北方高地第
四中隊據點内ニ在リ

大隊長 井上大尉

下達法 命令受領者ノ集メテ違筆記セシム
六、大隊本部ハ四〇〇現在地出發新陣地ニ到ル
ルニ當リ據點内ニ在リ空襲警報解除ノ電文ヲ

命令 八、井作命令第三六號
旅ヲ一先ツ配備ヲ撤收ス、同時左記命令ヲ下達ス

以第二大隊命令

八月十日
八月十日
八月十日
八月十日

一、十日二三三〇空襲警報解除サル 聯隊ハ丙巖
戰備ニ轉移ス

二、大隊ハ直ニ丙巖戰備ニ轉移スルト共ニ依然現陣
地ノ據築ヲ行ハントス

三、關中尉富田主計中尉ハ引續キ彈藥種林ノ
分散ヲ實施スヘシ

各隊ハ現地ニ據行ヒ彈藥ヲ兵舎係ニ於テ集結
シ各陣地内ニ七矢止メ措置ヲシテ隱匿シテラハシ

四、予ハ一〇〇〇遠現在地ニ在リ爾後今歸仁國民學校
ニ在リ

大隊長 井三 大尉

下達法令令受領者ヲ集メ曰違軍也セシム
 九関中尉ハ殘置人員ヲ區署シ彈藥ヲ釋給シ與那嶺
 南方陣地附近ニ搬送ス
 一〇大隊長ニ三〇配備撤收歸隊ス
 一一岩淵軍曹以下一五名ハ新陣地構築ノ多ク經始ヲ
 ナシタル後一六〇〇歸隊ス
 有線通信不能トシテ歸隊後即時應原軍曹ヲ
 シテ聯隊本部トシ連絡ニ當ラシム
 今歸仁
 日直下士官 陸軍主計伍長 中田芳雄
 將校以下 二八名

井上

十月十日

宿營地
 勤務
 人員
 今歸仁
 日直下士官 陸軍軍曹 宮崎 啓二
 將校以下 二八名

井上

十月十日

陣地構築

一 應原軍曹以下二三名陣地構築作業中死ス

一 大隊本部 第五中隊ノ一トハ隊員勤務不能者ヲ以テ彈藥ヲ釋給シテ連絡シ陣地附近ニ分散疎開ス
 二 仲原軍曹以下一五名彈藥ヲ分散疎開シテ一八〇〇歸隊ス
 三 一四〇〇聯隊副官外一名連絡ノ爲來隊シ一四三〇歸隊ス

四 村民ノ山地ニ避難スルモノ多ク家ヲ空ク空襲アルハ冬心スヘキモノアリ

二、副官聯隊本部、連絡ノ爲メ。出役ノ六。聯隊又
 三、二。聯隊本部ト有線通信補修完成ス
 四、大隊長一五。〇。一六。〇。迄空襲時對スル心構ヘ注意ニ
 ツキ今歸仁村長、村會議員各部落區長共、他指
 導者ヲ本部ニ集合セシメ注意ヲ與フ
 出席人員一。五名
 五、村民ノ動搖甚シキニテ駐屯地司令官ヨリ左記諭告
 ノ役場ニ連絡直子ニ廣告ス

諭告

一、空襲警報發令セラルル間住民ハ各増産ニ勵メ
 二、家ノ有ル者ハ家ニ歸レ
 三、空襲警報ハ「サイレン」及「集積ノ場」ヲ知ラス
 四、夜來通一進シテ軍ニ協力シテ空襲警報シテ青年ノ
 五、訓練ニ勤シテ軍ニ協力シテ空襲警報シテ青年ノ
 昭和十九年十月十三日
 駐屯地司令官

六、一六。〇。空襲警報發令受領ス
 一七。一。〇。空襲警報解除サレ
 七、仲條軍曹以下用務兵ニ依リ彈藥ノ運搬完
 了ス

宿營地
 勤務
 人員
 今歸仁
 日直下士官 陸軍軍曹 宮崎 啓二
 將校以下 二八名

十月十日

一、臺灣軍空襲警報發令。〇。上。一。五。五。
 二、副官駐屯地會議室ヲ爲メ。八。〇。發聯隊本部

出張六。師隊ス

三、陸部隊(連六)ト、連絡ノ為、地方有線通信經由

ヲ以テ之ヲ片断連絡ノ方法ニ依リ、連絡スルノ岩淵

軍曹ヲシテ連絡セシム

四、大隊長、團中尉、宇土部隊ト連絡ノ為、一三〇。出發

一六〇。解隊ス

今歸仁守備隊ハ、解隊主力、伊江島ニ到ルニツキ

北地區隊トナリ、前在務ヲ續行

命令 今五、新本部地區隊命令、要旨左ノ如シ

一、皇國ハ本明日ヲ期シテ航空決戦ノ企圖ヲ有ス

旅團ハ、長ニシテ大P一中之率ニ、伊江島ニ到リ、在

行場兵力ヲ強化セシム

北地區隊ニ、新ニ南地區隊長ニ屬セシメラル

西側高地、伊野及西側高地ヲ占領シ、主力ヲ以

テ福地、東方高地、双東、方及南方高地ヲ堅固

ニ守備ス、其ノ細部ニ就キ、ハ、長ニ直接指示

新本部地區隊長 宇土大佐

命令 六、北地區隊命令、要旨左ノ如シ

一、皇國ハ本明日ニ、皇國臺灣附近ニ於テ航空決戦

ヲ企圖ス

軍人管内ニ在ル航空基盤ヲ確保シ、右ノ取決ヲ行

ニ協カス

旅團ハ、伊江島ニ兵力ヲ増強シ、特ニ、行場ノ補

強ニ、遺脱ヲ防グ

本部地區隊長、宇土大佐ヲ、渡久地附近ニ配

置行動用後援ニ在ス

四第ニ大隊(通店ノ部ヲ舊ス)速射砲中隊後編スル本部地區隊長ノ指揮下ニ入ルヘシ

北地區隊長 美田大佐

命令 七. 半作命第三七號別紙ノ如シ

八. 二〇〇旅團司令部ヨリ電諾アリ「四四〇臺灣

軍空襲警戒報解除

今歸仁

居管地 勤務 人員 日直下士官 陸軍軍曹 塩原茂信 將校以下 二八名

北地區隊命令

一 皇國ハ本明ヨリ期シ台湾附近ニ於テ航空決戦ヲ企圖ス

シ 聯隊ハ主力ヲ以テ伊江島航空基地ヲ確保シ本作戦遂行ニ協力ス

二 大隊ハ聯隊ノ指揮下ヲ離レ新本部地區隊長ノ指揮下ニ入り北地區隊トナリ北地區隊ノ任務ヲ續行セントス

三 第六大隊 第七大隊 福地北方 二百本胡鎖

動部隊、突進ヲ阻止シ、分隊ヲ以テ
細部高地ニ前進陣地ヲ占領ス、分隊ヲ以テ
細部二關ニテ八現地ニ於テ指示ス

四 第四中隊 中第一線高地西北方二百米閉鎖
曲線高地 同西方高地ヲ占領シ有カナル
一部ヲ以テ△高地ヲ各一分隊ヲ以テ内
當北方高地ニ同東北高地ニ夫々前進
陣地ヲ占領ス、分隊ヲ以テ
細部二關ニテ八現地ニ於テ指示ス

五 第五中隊、主カヲ以テ△高地
細部二關ニテ八現地ニ於テ指示ス

六 第二機關銃中隊ハ△西方高地及第四中隊
ノ主陣地内ニ各一銃分隊第五中隊ノ陣地ニ
二銃分隊陣地ヲ占領ス、分隊ニ
細部二關ニテ八現地ニ於テ指示ス

七 第一線中隊ノ戰鬥地境左、如シ
右第一線中隊ノ圖上高地ヲ占領シ、夫等
左第一線中隊ノ圖上高地ヲ占領シ、夫等

八大隊本部△以東南ラフニ位置ス

九各隊八直ニ陣地ノ申送申受カシテ速ヤカニ新配備ニツキ陣地ノ構築ヲ任スヘシ

十余ハ今宿ニ交ニアリ

乙戦備ト共ニ△△ノ戦斗指揮所ニ到ル
北地区隊長 井上大尉

各隊長ヲ集メ要ヒテ下達右命令ヲ受領シテ集メ印
別配布
下達法

一各中銃隊ハ本朝ヨリ井上命令第三七號ニ基キ
各其諸準備ヲナス

二腹中尉ハ陣地彈藥分散配置ニツキ各陣地
ニ勤務隊ヲ指揮シ之カ完全收容ニ任ス
(〇八〇〇一八〇〇)

三一二〇聯隊通信班村田伍長以下八名大隊ニ配屬
セ列着ス

有線班 村田伍長以下五名
無線班 飯大兵長以下二名

四聯隊本部ヨリ軍大ニ頭分配セラル
長谷川軍曹、佐々木上等兵ヲシテ受領セム

命令五井上命令第六一號
井上隊長命令 十月十五

(井)

十月十六日

宿營地
勤勞
人員

日直下士官 陸軍軍曹 藤井老男
將校以下二八名
今歸仁

丙溪戰備解除
機動部隊攻撃終了
六元三〇帝國空軍機々々戰果發表サルト共ニ敵

右者軍火取扱兵之命ス
陸軍上等兵 佐々木忠雄

右者退院患者護送之為一泊二日豫定ヲ以テ
名護ニ出張ノ命ス

陸軍一等兵 馬場恭二郎

陣地構築

一、陣地構築
二、宿營地軍曹以下六名本部陣地構築作業任ス
四、第四中隊(除指揮班)八福地へ移駐シ陣地、促進ニ在ス

五、五〇五。左記電文受領ス(旅團ヨリ)

左記

平島村役部官御來迎ノ為沖繩本島地區

二丙號戰備下令

一六日一〇〇〇

六、一四〇七。空襲警報發令沖繩本島地區

西方六〇米不明機近接ス

一四四〇。空襲警報解除

命令七。字水命令第六四號專旨生知シ

七、八連空襲警報及町役場へ連絡シ度久地燒

跡ノ鐵類ヲ軍需用トシテ取出シメ渡久地國民
學校校友ニ集積スヘシ

命令八井日命第六二號

井上隊命令

十月十六日

陸軍軍中 仲條嘉春

一、右者昭和十七日即日歸隊ノ豫定ヲ以テ燒跡
鐵類集積ノ爲度之地ニ出張ヲ命ス

今歸仁

活營地
勤務
人員
日直下士官 陸軍軍曹 藤井光男
將校以下二八名

(井上)

十月十七日
命令 井上隊命令第三七號

一、燒跡ノ鐵類集積ノ爲度ニ現在逃走中ノ敵ノ外ニ新
敵機動部隊三群ヲ朝東方一〇一三〇哩附
近ニ在リ

二、大隊八直ニ退避シテ早朝ノ空襲ヲ豫期シ警長
ヲ兼セントス

三、各隊ハ速ニ傳令ヲ分ち地ニ派シ本命令ヲ傳
フヘシ

四、予ノ現在地ニ在リ(符野原ノ名義前在リ)

大隊長 井上大尉

下達法 命令受領者ヲ集メテ逐筆記セシム

二、右命令ニ依リ退避地ヲ指定シテ速ニ傳令ヲ命ス

三、陸軍軍中命令一ヲシテ伊豆味知隊本部ニ連絡
セシム

四、二四二五號ヲ報知シテ

(甲)

十月十八日

陣地構築

宿營地

勤務

人員

一四四。空襲警報解除

右間。上空ニ敵機ヲ見ヌ

各中隊隊員共ニ軍狀ヲ

五ヶ所隊員會渡ノ地ニ到リ、鐵屑ヲ集蒐ニ任シ

一八〇。歸隊ス

今歸仁

日直下士官

陸軍軍曹 藤井光男

將校以下 二八名

一〇七一。警報解除

二。陸軍軍曹以下五名陣地構築ヲ作業

三。關中尉本部陣地構築指揮ヲ任ス(一八〇〇)

今歸仁

日直下士官

陸軍軍曹 藤井光男

將校以下 二八名

(甲)

十月十九日

陣地構築

命令

一。關中尉第四五中隊陣地構築連絡ヲ爲ス

出發現地ニ到リ、一八〇。歸隊ス

二。岩淵軍曹以下五名本部陣地構築ヲ作業ヲ

實施ス

三。字本令第六號左ノ如シ

本部地區隊命令 十月十九日

一。部隊ハ概況ニ基キ、隊主力ヲ復命ニ伴ヒ、舊在務

ニ復セントス

二。第一大隊(井上隊)ハ、一。中隊ヲ邊名地西側高

地附近ニ配置シ濁泥ニ五聯隊主力ノ渡久地港場
陸中對空掩護ニ任セシムヘシ

掩護時期ニ就テ直接美田部隊ト連絡スヘシ

三、第二大隊及速射砲中隊ハ濁泥ニ五聯隊主力ノ
渡久地上陸完了ヲ俟テ本所屬ニ復歸スヘシ

四、予ハ伊豆味本郡ニ在リ

本部地區隊長 宇土大佐

四、各中隊隊長共ニ各々分屯ヲシ陣地構築ノ促進ヲ

ナシアリ

奉仕隊ニ敵ノ格納空襲ノ實相ニ對スル認識ヲ

知得シ逐次増加シテアリ

今ノ歸仁

日直下士官

陸軍技術軍曹 長谷川信一

宿營地

將校以下ニハ名

一、副官、聯隊命令ニ依リ名護旅團司令部ニ於テ
行ハル、副官會同出席ノ爲メ。七〇。發着護町ニ
出張一九〇〇歸隊ス

陣地構築

二、岩刺軍曹以下七名陣地構築作業ノ實施ス

三、副中尉本部陣地構築指導ヲス(八〇〇一四〇〇)

四、中尉本部陣地構築指導ヲス(八〇〇一四〇〇)

注

陸軍技術軍曹 長谷川信一

南島精助 余北軍

球木米太郎 隊員

注 米米生年次表ノ者ヲ示ス

今ノ歸仁

日直下士官

陸軍技術軍曹 長谷川信一

宿營地

勤勞

井上

人員

將校以下 二八名

十月二十日

一、件隊軍中以下三名陣藥分散狀況照檢ノ爲。八〇〇
ヨリ陣地ニ到リ實施ス

陣地構築

二、塩原軍曹以下五名陣地構築作業ヲナス

三、関中尉副官ニヨリ各隊陣地構築作業ノ視察ス

四、聯隊通信班ヨリ分遣勤務中ノ村田伍長以下八名

本部ニ復歸ス(一五〇出發)

五、二四〇警報發令

前由清島全地區

在津米米空軍ノ怒アレルニ依リ

今歸仁

宿營地

十月二十日

陣地構築

一、岩淵軍曹以下八名陣地構築作業ヲ實施ス

二、各隊夫現在迄各種ノ手段ヲ盡シテ情報ノ集獲ニ

努メ通時作業進捗ヲナシテ

今歸仁

日直下士官 陸軍軍曹 塩原茂信

將校以下 二八名

十月二十日

人員

勤務

宿營地

陣地構築

一、関中尉副官。七〇〇出發シ。二高地ニ到ル

二、四〇〇坂團長並聯隊長末隊ヲ現構築軍中ノ

各隊陣地ノ視察ナサレ。四〇〇歸隊セラル

井上

三宮騎軍曹聯隊本部出張シ種株其他消耗品
ノ受領ニ任ス

命令 四井日命 第六四號

井上隊命令 十月二十三日

一 西村隊 陸軍軍曹 伴 作次

陸軍衛生兵 松井良治

右者退院患者受領ノ爲明二十日ヨリ三日ヨリ

豫定ヲ以テ島尻郡南風原村字兼城南風原

國民學校出張ヲ命ス

宿營地 今歸仁

日直下士官 陸軍技術軍曹 長谷川信一

勤務人員 將校以下 二八名

二團中尉第四中隊第五中隊ト連絡ノ爲。八〇。
出發一。〇。歸隊ス

命令 三井日命 第六四號

井上隊命令 十月二十四日

一 陸軍大尉 橋本安弘

陸軍中尉 西村又次郎

右者戰法研究會出席ノ爲明二十五日即日歸

隊ノ豫定ヲ以テ渡久地出張ヲ命ス

今歸仁

日直下士官 陸軍軍曹 塩原茂信

將校以下 二八名

井上

十月二十三日

陣地構築

一、岩淵軍曹以下七名陣地構築作業ヲナシ
二、花岡兵長兵器修理ノ爲陣地本部ハ連絡同時
自轉車五台ヲ車馬ニテ運搬ス

三、一〇二左記情報ヲ受テ (旅團電)
左記

一、強縣附近ヲ北東進セル敵機ハ濟州島ニ來襲セリ
〇九三五西部軍空襲警報發令

伊江島ニ來襲ノ算アルニ付警戒ヲ嚴ニスヘシ

各隊ハ軍需品ノ疎開ノ分軍散ニ遺算ナキヲ

期スヘシ

四、右ニ依リ各隊ニ連絡嚴言戒ヲ嚴ニセシム

五、一四三〇南西諸島全地區警戒警報解除サル

命令 六、井作命令第三九號別紙ノ如シ

別紙

井作命令第三九號

今 歸仁守備隊命令

四五七
今 歸仁守備隊

一、大隊ハ聯隊主力ノ復歸ニ伴ヒ舊任務ニ復歸ス

二、各隊ハ夫々井作命令第三四號ノ任務ニ復歸スヘシ

三、新ニ左ノ如ク一部ノ配備變更ヲ實施ス

一、第四中隊(附一小隊)ハ全カヲ以テ△302西側高地ニ據点式ニ堅

固ニ陣地ヲ佔領スヘシ

持ニ△302高地方面ヨリスル敵ノ攻勢ヲニ對シ堅固ニ陣地ヲ佔領スヘシ

之、第五中隊(二一小隊)ハ新ニ二ヶ分隊ヲ以テ内營南東側岩石

ノ高地ニ陣地ヲ佔領スヘシ

之、第六中隊(二一小隊)ハ△302西側高地ノ北東方高地(圖上)ニ

陣地ヲ佔領スヘシ

之、第七中隊(二一小隊)ハ△302西側高地ノ北東方高地(圖上)ニ

陣地ヲ佔領スヘシ

之、第八中隊(二一小隊)ハ△302西側高地ノ北東方高地(圖上)ニ

陣地ヲ佔領スヘシ

之、第九中隊(二一小隊)ハ△302西側高地ノ北東方高地(圖上)ニ

陣地ヲ佔領スヘシ

之、第十中隊(二一小隊)ハ△302西側高地ノ北東方高地(圖上)ニ

陣地ヲ佔領スヘシ

第一線高地ニ陣地ヲ占領シ第四中隊主力正面第一大隊正面ヲ一々分隊
 以テ△302高地ニ陣地ヲ占領シ第四中隊正面及△302北東側斜
 面ヲ側防スヘシ

四 第一線中隊ノ戦闘地境左ノ如シ

右第一線(第六中隊) △302高地西方高地ノ南側凹地一乙羽岳
 中第一線(第四中隊) 圖上並里ノ並ヨリ真那嶺西端ヲ連スル線
 左第一線(砲谷小隊) 線上ハ共ニ右ニ屬ス

五 予ハ今歸仁校并備隊本部ニ在リ

今歸仁守備隊長 井 上大尉

不運決戦中口邊後印付文

七 獨泥二五五命 第六六號ニ依リ左ノ通リ昇給ス
 陸軍中尉 関 太郎
 賜一等級給

宿營地 今歸仁
 勤務 日直下士官 陸軍軍曹 仲條嘉春
 人員 將校以下二八名

十月二十日
 陣地構築

一 岩判軍曹以下七名陣地構築作業ヲナス
 二 聯隊通信ヨリ配屬サレシ川兵長以下四名交代
 三 同時村田伍長以下六名新ニ配屬サレシ二〇到着
 在營ノ繼續ス

四 明于七日各村區長ヲ集メテ協談ヲ爲シ河室農場ト連絡ス

五 連日我軍ノ收メタル戰果ニ依リ各隊ハ防衛態勢ヲ愈々速ニ完壁スヘク工事ヲ繼續中ニシテ相當ノ進捗ヲナセリ

命令 六 井日命 第六六號 十月二十六日

一 左通一部隊日直將校ニ服務スヘシ

十月二十六日 川合少尉

十月二十七日 吉川准尉

十月二十八日 中野中尉

十月二十九日 原田曹長

十月三十日 川合少尉

宿營地 勤務員 今歸仁 日直下士官 陸軍軍曹 宮崎啓二 將校以下 二八名

十月二十七日

陣地構築 一 塩原軍曹以下七名陣地構築作業ヲ實施ス 命令 二 井日命 第六七號

井上隊命令 十月二十七日

一 陸軍中尉 山下寛治

右者駐屯地會報出席ノ爲明二十日度久地部隊本部ニ出張ヲ命ス

二 陸軍軍曹 岩淵亮一

陸軍衛生士 横山利治